



未来を創る財団

Newsletter MIRAI  
(future)

“A brighter future for  
the next generation”

みらい

No.5 Feb 2015

The Outlook Foundation

テーマ グローバル時代のビジネスパーソンへ <目指せ、グローバル日本人> (要旨)

藤田 薫

ケイ・グローバルコンサルタント株式会社 代表取締役

私の仕事は OD(Organization Development)コンサルタント。組織開発、企業組織が、ビジョン・目標達成をしていくプロセスで、「人の部分/マネジメント面」でのポテンシャルを最大化するサポート役。キーワードは常に「変化への対応」と「change leader の育成」。

### グローバリゼーションの意味

20 世紀は国際化の時代。

21 世紀、グローバル化とは国境に邪魔されずに、壮大に、人・モノ・金が動くこと。

### グローバル日本人・・・ 日本的美質を活かし世界に貢献するリーダーへ

あらゆる業界の管理職教育の中、工場の現場リーダーの研修は、最も胸を打たれた鮮烈な「一所懸命さ」。「ミクロンの世界」機械やロボットでは「出来得ないこと」だから人間がやる。熟練した人の手には、魔法が宿っている。掃き清められ、磨きこまれた道場のよう。

### 日本が生き残る道は「アナログ」

これから先、半端でない底力を持つ下請け中小メーカー、内に秘めた珠玉の発想力、技術力、ソフト力が、日本を、そして世界を変えて行く。

「芸術的に高い美意識」によって、数多くの難題を解決する「チーム力」。

日本の強みは「ひと」がからんでいる「アナログ」の中にある。

### 「中間管理職」がグローバルビジネスの鍵

日本企業の、現場の強みの一つは中間管理職というパイプ役。

今こそ、経営の翻訳係、上下のパイプ役、人材の現場育成係である中間管理職の出番。21世紀は、「グローバル日本人」のマインドセットを持った「中間管理職」がグローバルビジネスを牽引。

### 日本人の得意なこと

日本人は、東日本大震災の時に世界の賞賛。我慢強く、粘り強く、規律正しい。人間を大事にし、暖かく、チーム指向。こういった美質を自覚し、これを「グローバルチーム」で「和を以てて尊し」をどのように実現するか...

多様性を活かすプロデューサー能力、「場」を作ること。世界に誇れる日本人特有の美質。

### 「混成チーム」の救世主となった驚異の日本人

ある外資系IT企業、世界中のアカウントマネジャー(営業責任者)国際会議、メンバーは多彩。後半、討議が膠着状態。バラバラになりかけたとき日本人S氏が立ち上がり、散らかった意見を整理。共通項を見つけ、みんなが納得できる結論を出そうと、みんなを巻き込んでいく。

見事な異文化対応、一言で言えば「謙虚さ」。

頭をやわらかくして、「自分は洗脳されたい」気持ち。相手の話に耳を傾け、ともに考えようとする姿勢。謙虚で堂々とした態度でメンバーを魅了し、結果に貢献。

## ■21世紀のグローバル日本人 これからの課題

美質を自覚し、グローバルで活躍する「グローバル日本人」であるために必要なアクション

- ・1人ひとりが大局観を持った「人間通」になること
- ・鳥の目を持ち、大きく、広く、世界と人間の「通」になること

情報技術の発達で、先行きが読めない変化の激しい時代。

理屈で割り切れる時代ではない。移り気で、クルクル変わる情報社会市場、今までの科学的な常識はくつがえる。非常に人間くさい知識社会・サービス社会。21世紀になってからビジネスは、人間を理解しなければ、人間通でなければ、どうにもならない。

「人間通にならなくては、一人前と言えない！」

人間通とは、優れた見識を持つこと。

「見識」を磨く。見識とは、物事の本質を見通す優れた判断力。世界観・人生観、仕事観など、物事についてのしっかりした考え、見方をさす。人間の生活とはどういうものか、自分はどう生きるべきか、思慮・分別・判断の基軸であり、私たちの一生を通して深めていくもの。

その「王道」として、古今の名著に触れること。

## 『最高品質の製品・サービス』 生み続ける鍵は、伝説と言われる企業文化

日本の製造業苦難の時代。されど品質。最高品質は、今後もずっと日本の競争力の鍵。ここにこそ日本のお家芸。トヨタがアメリカで成功して来たのは、製造プロセスではなく、マネジメントシステム。それが社風であり企業文化。デジタルに分解しきれない「アナログの世界」。

最高のものを作っても、最高のサービスと評判を呼んでも、すぐに真似される現代。競争のポイントは、エクセレントな製品・サービスを永久に生み出せる、強い「社風」を築き上げて来たかどうか。常に今の自分を否定しながら、今以上のものを追いかける社風…。それを「伝説」と呼びたい。

## <グローバル日本人の姿>

自らの美質を再確認し、今後目指す姿は；

「匠の技と魂」

「人を大事にし、和をもって尊しとする」

「グローバル日本人として、これからはすべきこと」

現場の一人ひとりが現場力を発揮していく

出自に誇りをもち、多文化多様な異なる人々を活かすプロデューサー能力

## 執筆者紹介:

### 藤田 薫(ふじた かおる)

ケイ・グローバルコンサルタント株式会社 代表取締役

- ◆同志社大学英文科卒業。日本航空客室乗務員として乗務後、海外営業支店（欧州/米州/アジア）にて多様な異文化マネジメント体験を積む。その後カリフォルニア大学（UC Berkeley）で組織心理学専攻後 MBA
- ◆1985 株バイリンガル現法担当副社長として在ニューヨーク。総責任者として、立ち上げから黒字化まで担当。
- ◆1987 より 2001 年まで 大手コンサルタント会社にて部長級コンサルタントとして、延べ 2000 社以上の企業の組織開発・人材開発を担当。
- ◆2001 ケイ・グローバルコンサルタント株式会社設立  
代表取締役/エグゼクティブ・コンサルタントとして活動、現在に至る。

### 資格・著書・訳著 他

- ◆ヒューマンエレメント公認トレーナー（アメリカ）  
（組織のヒューマン・ウェア向上）
- ◆アクション・マネジメントーPSDM（問題解決・意思決定）  
マスター・インストラクター（アメリカ）
- ◆著書 「日本企業・底力」2013年 幻冬舎
- ◆訳著 S.ラインスミス著「新グローバリゼーション・ガイド」1999年 春秋社

